



**国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)最高位賞
アンドリュー・モラヴィエフ・アポストロ賞 受賞**

日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科 木村真理子教授

日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 木村真理子教授が、7月2日(月)アイルランドのダブリンで開催された2018年国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)総会において、IFSW最高位の賞である「アンドリュー・モラヴィエフ・アポストロ賞」(Andrew Mouravieff-Apostol Award)を授与されました。

この賞は、国際ソーシャルワーク分野で功績のあった専門職に送られるものです(賞の名称は、同組織の先代の事務局長に由来し、同組織の国際的地位を高めた氏の功績をたたえてその名を冠したもの)。

木村教授は、IFSW副会長、同アジア太平洋地域会長(2014~2018・7)を務めています。

■国際ソーシャルワーカー連盟(International Federation of Social Workers (IFSW))について

国際ソーシャルワーカー連盟は、ソーシャルワーカー(専門職)の国際組織です。1928年パリで設立され第2次世界大戦まで活動していた「国際ソーシャルワーカー常設事務局」を前身とし、1956年、ミュンヘンで開催された「社会福祉についての国際会議」において設立されました。

本部をスイスに置き、現在、世界各国の300万人を越えるソーシャルワーカーを代表する130余の各国組織が加盟しています。日本では「日本ソーシャルワーカー連盟」(JFSW)を調整団体として、日本ソーシャルワーカー協会、日本社会福祉士会、日本医療社会福祉協会、日本精神保健福祉士協会の4団体が加盟しています。

【木村真理子教授 受賞コメント】

栄誉ある賞をいただき、大変謙虚な気持ちにさせられる思いです。

ビジョンを持ち、クライアントの最大の利益を目指し、専門職の存在意義を高めるべく、たゆまず働いてこられた、敬愛するソーシャルワーカーの諸先輩が受賞された賞をいただき、大変光栄に存じます。アジア太平洋地域の活動を活性化できた背景には、アジア太平洋地域のIFSW加盟組織の協力、IFSWアジア太平洋地域の活動の重要性を理解し財政的支援を提供してくださった日本の民間組織、そしてJFSW(日本ソーシャルワーカー連盟)チームの支援が大きな力となりました。深く感謝申し上げます。

